

53

153

×
複写

大正八年世界的流行性感胃复闻録
並ニ其ノニツケテ
血清ヲ應用セル治癒実験



始



五味淵伊次郎述

大正七八年ノ世界的流行性感冒ノ見聞録

並ニ之レニ「ヂフテリア」血清ヲ應用セル治療實驗

53-153



大正七八年ノ世界的流行性感冒ノ見聞
録並ニ之レニ「ヂフテリア」血清ヲ應用セ
ル治療實驗ニ就テ

疾病來ノ豫想

栃木縣矢板町

五味淵 伊次郎

大正
8. 5. 5
内交

大正六年ヨリ大正七年ニ亘ル冬期ハ數十年來ニ稀レナル非常ノ嚴寒ナリト老人ハ
氣象臺又例年ヨリ温度ノ底下ヲ報ゼリ且ツ我栃木縣鹽谷郡地方降雨雪ノ量少ク早
寒トシテ此季シクモ例年ヨリ寒冒性疾患少ク若葉綠ニシテ陽光長閑ニ百鳥梢ニ
鳴ズル春ノ候ニ至リ丘北傾斜面ノ杉檜苗等丈餘ニ達セシモノモ大半枯死シテ紅ニ化
セリ此季一種ノ肺炎及結膜炎流行セリ其期間大約五十日コノ肺炎ハ從來ノ「クルブ」性
肺炎或ハ加答兒性肺炎ノ症候ナルモ一般ニ症狀ハ輕ク胸痛少ク鋪色痰ヲ喀出スルモ
稀ニシテ死亡者殆ドナカリキ結膜炎ハ一家ニ侵入スレバ家族全部相次デ侵サレタ

ルモ重症ナルモノ少ク從テ醫治ヲ乞ヘルモノ稀ナリシ其家族中ニ往々肺炎ヲ見タリ
コノ肺炎ト結膜炎ハ同種ノ病原菌ナリシモノノ如シ以上ニヨリ推定スルニ生物タル
動植物ノ受クル自然ノ害ハ出現スル時マデ同一ニシテ其形態ノ異ナルノミナルヲ知
レリ夏季ニ入り砂焼ク炎熱ハ殊更酷烈ナリシモ炎熱ノタメニ生ズル日射病熱射病小
兒大腸加答兒霍亂等暑氣ニ反シテ至テ少カリキコノ時ニ感ズ過グル冬期ノ酷寒ニ疾
病少カリシモ若葉ノ春ニ至リ肺炎結膜炎流行セリ然ラバ今夏ノ害ハ今秋落葉ノ候ニ
出現センモノト而シ其疾病ノ何タルヲ知ル能ハザリキ。

疾病來

秋季落葉ノ候ニ入ルヤ飛電新聞紙上ニ「スペイン」感冒ノ世界的大流行ヲ報ズ歐洲ニ米
大陸ニ南洋ニ東亞ニ類々タリ拾數日ヲ出デズシテ我國土ニ侵襲シ間モナク東京ニ流
行ヲ報ジ貳旬ナラズシテ我朽木縣矢板町地方ニモ傳染セリ當時歐洲西部戰線ニテ獨
軍ノ罹病者甚大ナルヲ報ゼリ。
最初當地ニ侵入セシハ矢板農林學校生徒東京ニ遠足シテ歸ルヤ續々トシテ發病者ア
リ余ノ診察ヲ乞ヘル最初ノ患者ハ拾月貳拾六日ニシテ同校生徒ナリ次デ同月貳拾八

日矢板驛員ト役場員各一人ノ患者ヲ診シコノ時初テ流行性感胃タルヲ知レリ其後相
次デ諸所八方ニ同病者アリ是役場員ハ茨城縣方面ノ旅行ヨリ歸リタルモノナリキ當
時小學校生徒モ秋季旅行ニヨリ歸校後續々トシテ罹病者ヲ出セリ。

傳染狀態及其性質ノ變化

當時新聞紙上ニ東京ニテハ死亡者甚多ク火葬場ノ混雜名狀スベカラズト然ルニ當地
方ノ患者ハ外來ニテ體溫三十八度乃至三十九度脈良好ニシテ頭痛氣管部ノ疼痛ヲ訴
ヘ輕咳ニテ發病後二日位ニテ診ヲ乞フ二日後ニ來ルトキハ解熱シ強キ腰痛ヲ訴フル
ノミニテ何等重態ナル症狀ナカリキ又其家族多クハ傳染セズ故ニ傳染力モ甚薄弱ナ
ルモノト思ヒケリ然ルニ日ヲ經ルニ從ヒ各學校ハ生徒間互ニ傳染シ生徒ヨリ其家族
ニ傳染シ缺席者相踵ギ遂ニ一週間内外ノ閉校ヲナスモノ日々紙上ニ新ナリ然レドモ
十一月中旬マデ近隣ニ一人ノ死亡者ナカリシモ是迄外來ナリシ患者ハ大抵宅診ヲ乞
フニ至リ稍々疾病ノ重態トナレルヲ感ジ一家數人枕ヲ並べ始メタリ然レドモ未ダ散
在的ナリキ當時我家ニ本病患者日々出入セシモ傳染セズ故ニ傳染ハ免ルルナラント
語リ居タリ此頃二里許西方大宮村方面ニテ罹病者甚シク而モ疾病重惡ニシテ肺炎ニ

ヨリ死亡相次ギ甚シキハ夫婦共ニ斃レ愛兒三人ヲ殘セリト悲報頻々人心恟々タリ適々十一月中旬依頼ニヨリ大宮村大字田所ニ往診セルニ戸毎ノ如ク患者ハ枕ヲ並べ三人五人累々トシテ瓜田ノ如シ其内約二割ノ肺炎重症者ヲ認メタリソレヨリ大宮村大字山田及ビ大宮等へモ十二月下旬マデ殆ド隔日位ニ往診シ該地方ノ實況ヲ見聞セリ始メ肺炎ハ「クルブ」性ト加答兒性トノミト思ヒ而モ一般對症療法ニテ能ク奏効セリ然ルニ十一月下旬ニ至リ余ガ居宅直前ノ家族ヲ侵襲シ皆罹病セリコノ家族中ノ一人ハ十月下旬罹病シ同月二十六日余ノ許ニ來レル矢板驛員ナリ此間約一ヶ月ニシテ彼ノ家族罹病セリソレヨリ數日內ニ其前家ト後家ノ我家ヲ侵襲シ互ニ全家族ヲ罹病セシメ我家族十二人約一週間ヲ出ズシテ相次デ枕ヲ並ブルニ至レリ之レ等ノ患者ハ肺炎様徴候過半數ニ及ビ症狀モ亦重惡ニシテ一般對症療法即チ鹽規、アスピリン、カンファル、ヂキタリス製劑等ノ内用注射安靜温濕布等ニテハ奏効思ハシカラズ且ツ嘔吐下痢ヲ來スモノヲ生ズルニ至リ早期ノ起床ニヨリ容易ニ重惡ニ變化スル性質ヲ帶ビ三軒共肺炎ニヨリ各一人ツツノ死亡者ヲ出セリ此時余ハ疾病狀態ノ觀察ヲ充分ニナスコトヲ得又是ニ「ヂフテリア」血清注射ヲモ斷行スルニ至レリ此頃ヨリ肺炎ノ「クルブ」性及ビ加答兒性ト異ナレルコトニ心付キタリコレヨリ日ヲ追テ近隣ニ傳染シ之レト同時

ニ曩ニ學校生徒ナドニヨリ傳染セラレ居タル病毒ハ猛烈トナリ近隣村落ニモ同様重症者續出セリ一家ニ侵襲スルヤ全家族ヲ侵シ又一村落ニ侵入スレバ其村落全部相次デ犯サズンバ止マズ或ハ村落ヨリ半里ヲ隔ツル山中ノ採炭ノ孤屋マデ侵襲セラレ或ハ高原山脈中ニ散在セル多數ノ鑛山ニモ侵襲セリコノ鑛山ハ人里ヨリハ數里ノ山中ニアリシモアリ概シテ十月下旬ヨリ十一月中旬マデハ病症輕ク十一月下旬ヨリ重症ニ變化セリ故ニ早時ニ傳染セル市街地ハ後期ニ傳染セル村落ヨリ輕症ナリシモノ、如シ村落ニテモ早期ニ傳染セル所ハ輕症ナリキ。

慘狀

片岡村大字安澤ハ戸數約百十戸ノ村落ナルガ十一月及十二月ノ二ヶ月間ニ於テ死亡者約三十名ヲ生ジ毎四軒ニ約一名ノ死亡者ヲ出セル割合ニテ大宮村方面ヨリモ慘狀甚シカリシ余ノ居所ヨリ約一里ニシテ隔日位ニ往診シコレ又其悲慘ノ狀況ヲ目撃セリ今其一班ヲ記サンニ十二月十一日午前十時頃ヨリ初雪降りシモ早朝此安澤ニ二軒往診ノ依頼ヲ受ケ居リシヲ以テ降雪後間モナク自轉車ニテ出發シ途中二軒回診シ午後二時頃安澤ニ入ルヤ降雪ノタメ人家ハ大抵戸ヲ閉ヂテ物寂シキヲ感ゼリ此時或家

ノ軒下ニ人力車アリテ如何ニモ醫ノ來診中ナルカラ推察セシム之ヲ外ニ見テ豫定ノ病家小口某方ニ至レバ二三日前若キ嫁ハ妊娠ノ身ニテ罹病シ爲ニ流産シテ死シタルモ病人アルガタメニ其里方ニ依頼シテ葬式ノ了ヘタルノミナリ然ルニ三十九歳ノ妻又肺炎ニ苦ムコト數日ニシテ各醫皆匙ヲ投ズト余之ヲ診スルニ又今宵ヲ保タザルベキヲ察スソレヨリ診ヲ乞フモノ先ヲ爭ヒ前後八軒ノ診察ヲナシタル時ハ暮色暗々タリ乃チ七時白雪ヲ踏ンデ歸途ニ就キ小酒屋ノ前ヲ過グ此時障子越シニ火氣爐ニ滿チ酒香紛々トシテ談笑頻リニ余ヲシテ流涎禁ゼザラシム私ニ思フ醫ヲ業トスルノ故ニコノ雪中ヲ歩行ス若シ他ノ業ニ從事センカ必ズヤ余モ亦此ノ樂境ニ在ランモノヲト又歩ムコト一丁ニシテ前ノ人力車雪中ノ路傍ニ佇メリ同業豈獨リ雪中ニ佇ムモノ余ノミナランヤ生靈ノ尊キヲ思ヒ身命ヲ忘レテ病者ヲ救フノ念慮ニテ今此寒夜雪中ニ彷徨ス誰カ同情ノ念ナキモノアランヤト暗中意中ニ敬意ヲ表シテ過グレバ前ニ人力車ノアリシ家ハ珍シクモ雨戸ヲ開キ障子ニ人影多キヲ見ル思フニ先ノ病者ハ遂ニ黄泉ノ客トナリ四圍ノ人々集リ弔ヒセルナラント又行クコト三丁ニシテ森後ノ墓中ニ物淋シキ佛堂アリ雪中寂トシテ音ナキ折シモ頻死ノ人ヲ呼ビ返ス婦人ノ叫聲耳底ニ達スルコト縷ノ如ク其物凄キコト云ハン方ナカリキ此等ノ狀況ニヨリテ察スルニ必

ズヤ三人ハ死スベシト語りタルニ翌朝四人ノ死ヲ傳フ豈慘ナラズヤ夜ノ八時歸宅セシニ余ガ家ノ兒守阿久津ヤストテ十一月二十八日發病後肺炎ヲ起シ重態ナリシモノヲ診セルニ既ニ脈絶エ居タリ其夜注射ヲ反覆セシモ翌朝十五歳ヲ一期トシ不憫ニモ不歸ノ客ト化セリ曩ニ此女ニチフテリア血清注射ヲ試ミントセシモ他人ノ子如何ニ思ヒテモ動物試驗的ニテ注射ヲ決行スルコトヲ得ザリキ今二三日生延ビタランニハ或ハ九死ニ一生ヲ得タリシカ今注射ヲ試ミザリシヲ憾ム。

此頃ナリキ田所方面ニ往診スル途中近村ノ一老母和氣某氏ニ會フ曰ク本年三十四歳ノ他家ニ嫁ギシ娘兩側肺炎ニテ罹病後十數日ニテ數人ノ子供ヲ遺シテ死亡シ看病ノ疲レヲ休ム暇モナク葬式ヲ了シ今歸リ來ルナリト又曰ク大宮村大字上澤ニテハ父子共ニ重症ナリシガ子先ヅ死亡シ今ヤ父モ亦危篤ニ類シテ醫ヲ望ム切ナルタメ馬糧ヲ馬ニ負ハシメ先ヨリ先ヘト醫ヲ尋テ廻リツ、アリト又我が娘ノタメ約參里半ヲ隔ツル某醫ヲ頼ミタルニ娘ノ死亡シタル翌日來診セリト之レニヨリ如何ニ病者多クシテ醫師ノ缺乏ニ困難セシカラ知ルニ足ラン此邊平時ハ左迄醫ノ不足ナキ所ナリキ。

一家八人大宮村田所ニ一家八人枕ヲ並べ病床ニ苦メルアリ又安澤ニモ一家八人屋内所狭キマデニ臥シタルアリキ。

何故ニ一村落ニノミ多クノ死亡者ヲ出セシカ

考フルニ一人重症トナルヤ輕症ノ親ハ其身ヲ忘レテ愛兒ノ看病ヲナサントシテ遂ニ重症ニ陥リ夫ノ苦ムヤ妻ハ己レヲ捨テテ看護ニ勉メ計ラズ反ツテ重症ニ變ジテ死ス茲ニ於テ葬式ヲ執行スルヤ近隣ノモノ皆病ヲ犯シテ手傳ヲナシ思ヒ乍ラ相次デ重症者トナリ死亡者續出セルガ如シ故ニ稀ニハ二三十戸ノ村落ニテ一人ノ死者ナキ所サヘアリ要スルニ我地方ハ輕症ノ村落ニテ全人口ノ一プロセント重症ニテ六プロセントノ死亡者アリシガ如シ。

矢板町及大宮村ノ人口ト死亡

矢板町ハ町ト十六大字ヲ有シ其戸數千四百十六戸人口男三千六百六十七人女三千八百八十五人ニテ町ニ二千八百六十人村落ニ四千六百九十二人ナリ其内大正七年十一月一日ヨリ同十二月三十一日マデノ死亡四十五人大正八年一月一日ヨリ大正八年二月二十八日マデノ死亡三十七人ナリ。大宮村ハ戸數六百七十四戸人口五千四百四十二人ナリ其内大正七年十一月一日ヨリ同

十二月三十一日マデノ死亡八十五人大正八年一月一日ヨリ大正八年二月二十八日迄ノ死亡十三人ナリ之レハ大正八年三月上旬調査(但シ此死亡ハ疾病ノ如何ニ關セザルモノナリ)。

次回ノ流行

次回ノ侵襲ハ何時ナルカ今回ノ流行ハ以前ノ流行ヨリ二十八年九ケ月目ニシテ數十年ノ間隔ヲオキテ來ルモノナリト云フ然ラバ次回ハ向後三四十年後ナランカ

原因

病原菌ハ未ダ確定ヲ見ザル如クニシテ學者間互ニ論争中ナリ。パイロヘル氏インフルンザ菌說肺炎雙球菌說ヲ稱フルモノアリ又チフテリア菌ヲ發見セリト云フモノアリ誘因胃寒不眠疲癆等ハ最モ本病ヲ誘發セリ傳染力ハ甚ダ強烈ニシテ病原菌空中ニ煙霧ノ如ク飛散シ之レニヨリ傳染セルカヲ想像セシメタリ。

余ハ本病ヲ左ノ如ク觀察セリ。
一、本病諸症候ハ從來ノチフテリアニ類似スルコトチフテリアハ粘膜ニ加答兒ヲ起シ或ハ義膜ヲ形成スルコト全身症候

- 二、好シテ呼吸器系ヲ侵スコト。
- 三、空氣傳染ヲナスコト。
- 四、重症者ニチフテリア血清注射後ノ喀痰ハ普通氣管チフテリアニ血清ヲ用キタルトキドノソレト同一様ノ喀痰ナルコト。
- 五、血清注射後ノ經過ハ兩者同一様ナルコト。
- 六、喀痰ヨリ推察スルトキハ重症者ハ氣管又ハ氣管枝毛細氣管枝肺胞等ニ義膜ヲ形成スルモ輕症者ハ加答兒ナラン。
- 七、肺炎様症候ヲ呈スルモ普通ノ肺炎ト症狀經過等ノ異ナルコト。
- 八、初生兒及老人ヲ侵スコトナキガ如シ(之レハ誤リナランカ)。
- 九、寒冷ニヨリ症候増悪スルコト。
- 十、義膜ノ軟キヲ及空氣傳染ノ強キヲトニヨリ病原菌ハ至テ微細ナル細菌ナルヲ想像ス。

症候

潜伏期數日乃至數時間。

前驅期之レ又數日乃至數時間ニシテ又全ク之レ等二期共ニ認ムルコト能ハザルモノアリキ之ノ期ニハ頭重頭痛咳嗽食氣不振倦墮等アリ且ツ顔貌一種特異ナル暗紅色無力狀ヲナセリ故ニ流行劇烈ナル頃ハ既ニ此ノ顔貌ニヨリ本病初期ナルコトヲ知レリ十一月下旬ヨリ肺後面特ニ肩胛下部ニ一側或ハ兩側ニ浸潤狀ヲ呈シ呼吸音微弱ナル部ヲ認メタルコト多シ之レニヨリ推察スルニ肺炎ハ本病ノ續發症ナラズ重症ナランカ。

次デ發熱氣管部ノ疼痛關節痛等ヲ訴ヘ前驅期ノ諸症候ハ増悪ス。一般ヨリ判定スルトキハ輕症ハ氣管及氣管枝加答兒症候ニテ重症ハ肺炎ノ症候ヲ呈セリ。熱多クハ惡寒ヲ伴フテ上昇シ三十八度或ハ四十度以上ニ達シ二三日乃至一週間位ニテ解熱シ或ハ一時下降シテ再上昇シ數日連續スルコトアリ。脈頻數ナルハ重症ナリ。頭痛及腰痛輕症ニテ解熱スルヤ頭痛去リテ頭重ヲ殘シ強キ腰痛ヲ訴ヘ數日ニシテ消散セリ。

咳嗽既ニ前驅期ヨリアリ強キアリ弱キアリテ不定ナリ強キハ安眠ヲ妨ゲラレタルモノアリ。

喀痰輕症氣管枝加答兒ト認ムルモノハ粘調ニシテ少量ナルモノ多シ重症ニシテ氣管肺胞等ニ重義形成ト認ムルモノハ咳嗽喀痰一時減少シ二三日後ニ咳嗽再ビ増加シ灰白色膿樣痰ヲ喀出シ次デ純血痰ヲ交ヒ數日後粘調帶青色痰ニ變ズ或ハ泡沫痰ナルアリ死期ニ近クトキハ喀痰ハ著ク減少シ又ハ全ク消失セリ。

胸部ノ理學的變化輕症者ハ終始何等變狀ヲ認ムルコト能ハザリキ然レドモ十一月下旬ヨリハ加答兒性又ハクルブ性肺炎ニ類似セル理學的變化ヲ呈セシモノ増加セリ。視診胸部ノ浮腫狀腫脹多クハ肩胛下部ニアリ。

打診患部弱抵抗及濁音アリ。聽診患側ハ既ニ前面ニテ呼吸音ノ微弱ナルモノ多カリシモ後面ニ著シク治癒スルニ從テ恢復シ或ハ僅ニ強盛ナリシコトアリ僅微ノ乾性濕性水泡音ヲ聞キ或ハ稍々多量ナルアリ或ハ全ク終始缺如セルアリ或ハ二三ノ例ニテ發病五六日後ニクルブ性肺炎ノ第三期ノ如ク多量ノ有響性水泡音ヲ發セシモノアリアル時ハ氣管枝呼吸音ヲ聞ケリ聲音振盪患部ハ健側ニ比シ稍々強盛ナルアリ確定困難ナルモノアリテ不定ノ如シ。

稀レニ氣管チフテリア樣症候ヲ呈セルモノアリ。之レ等ノ理學的變化ハ解熱ト共ニ漸次消失セルモノアリシモ亦解熱後數十日ニ亘リ消散セズ恰モ肋膜炎ノ如ク或ハ肋膜肺炎ノ如キ症候ヲ呈シ健康恢復セズ起床或ハ胃寒ニヨリ一般症候ヲモ増悪シ易キモノ多カリキ數度反覆セル再發患者ハ皆之レニ基因セルガ如シ。

腹痛心窩部ニ胃痛ノ如ク或ハ側復ニ痛痛或ハ鈍痛ヲ訴ヘタリ之レハ胸部ニ理學的症候ヲ有セシモ反テ之レヲ主訴トシテ診ヲ乞フモノ多カリキ。

發汗發熱中ハ著シキ發汗ヲ伴ヘタルモ起床ナドニヨリ反テ發汗止ミタルモノハ不良ノ徵タリ。

特異ノ脱力瘦削本病經過中重病又ハ早時起床ヲナシタルモノハ發汗忽チ止ミ瘦削無力狀ヲナシ皮膚ニ皺避ヲ生ジ弛緩乾燥シ顔貌ハ汚穢蒼白ニシテ一種特異ノ狀ヲナシ軀幹ノ皮膚又枯燥狀ニヨリ本症ナルヲ推察スルヲ得タリ。

嘔氣嘔吐本病流行初期ノ發熱時ニハ嘔氣或ハ一貳回ノ嘔吐ハ必發的症候ナリシモ長ク嘔吐ヲ繼續セルモノハ十一月下旬ヨリ間々重症者ニ認メタリ。

下痢十一月下旬ヨリ六七人ニ一人位ノ割合ニ水樣下痢又ハ大腸加答兒樣粘液便ヲ見

タリ多ク單純ニ來ラズ肺炎症候ヲ有セリ。
四肢ノ痠麻重症者ニ間々存在セルモ間モナク消散セリ。
年齢初期流行中ハ幼兒老人ハ免レタルモノ多キモ一月頃ヨリハ漸次罹病者ヲ出セリ。
心臟麻痺最モ恐シキ變化ハ心臟麻痺ノ容易ニ起レルコトナリ。
出血、衄血、喀血、下血等アリシ故ニ出血傾向増加シ妊婦罹病スルヤ流産早産ヲナシ分娩
時多量ニ出血シタルハ妊婦ノ罹病者ニ死亡特ニ多カリシ一原因ナランカ。
其他ハ略ス。

豫後單純氣管枝加答兒ノ如キハ良好ナリシモ容易ニ症狀増悪ノ傾向アリシヲ以テ判
定困難ナリシ概スルニ高熱頻發ノ嘔吐下痢不眠呼吸困難脈搏百貳十至ヲ超ユルモノ
安靜ヲ守ラザルモノ妊婦梅毒等ハ不良ナリキ。

經過ハ初期ノ流行中ハ數日ニシテ治スルモノ多カリシモ十一月下旬頃ヨリ多クハ一
週乃至拾數日ヲ要シ又ハ數十日ニ亘レルアリ之レ再發傾向甚ダシカリシ故ナリ。
治療法一般對症療法ヲ行ヘリ安靜ハ嚴守ヲ要シ起居ヲ決シテ許スベカラズ解熱劑ヲ
有害ト説キシモノアリ又必要ナリト力説セシモノアリ何レガ是ナルヤ余ハ多ク解熱
劑ヲ用キタリ鹽規、アスピリン、等初期強心劑興奮劑ヲ配合スルハ一般ニ稱用セラレカ

ンフニル、カフエン、ヂキタリス製劑等又祛痰劑トシテ攝根吐根劑多ク用キラレタリ
之レニ鎮痰劑トシテ輕量ノモヒ劑ハ有効ナリシ余ハ左ニ記スル如キヂフテリア血清
注射ヲ併用シテ確効ヲ見タリ其他人ニヨリ種々ノ治療ヲナセルモ余ハ見聞不確ナル
ヲ以テ略ス。

「ヂフテリア」血清注射治療ノ實驗

要スルニ我地方ハ昨年十月下旬ヨリ流行ヲ始メ十一月下旬ヨリ漸次病勢強烈トナリ
死亡者續出シ十二月ニハ全盛ヲ極メ本年一月上旬ヨリ頓ニ患者減少シ其後ハ再發者
ト僅ニ殘レル少數ノ新患者ナルモ病態ハ重症ナルモノ多ク今尙終息ニ至ラズ。
余流行性感胃ト認メシ患者ニ大正七年十二月八日ヨリ同八年三月十一日マデニ「ヂフ
テリア」血清ノ注射ヲ貳百十四回注射人員九拾九人ニ及ビ其偉効ヲ認メタリ注射ハ比
較的重症者ニ多ク用キタリ然レドモ現在絶望的重患ノ外ハ奏効確實ナリキ豫防注射
ノ目的ニテ全ク發病徵候ナキモノト多少咳嗽惡寒頭痛等アルモノ合計拾六人ニ注射
シ其内八人ハ今尙發病セズ發病徵候アリシ八人ハ發熱ヲ防止スルコト能ハズ臥床セ
シモ何レモ輕症ナリキ。

左ノ症狀アルモノニ應用セリ。

一、氣管、チフテリア様症狀アルモノ之レハ呼吸困難氣管狹窄ノ症狀強ク且ツ氣管部ノ疼痛發熱アルモノ肺炎様症狀ヲ缺ク。

二、高熱者三十九度以上ノ高熱頭痛ガ主徵ニテ胸部ニ理學的變化ヲ認メザルモノ。

三、嘔吐下痢アルモノ之レハ肺炎様徵候ニ伴ヘ來タリ單純ニ下痢ノミ來ルトキハ確定稍々困難ナリ。

四、肺炎様徵候アルモノ(熱ノ有無ヲ問ハズ)之レハ胸前面又ハ後面ニ濁音抵抗ヲ認メ呼吸音微弱ニシテ多クハ輕度ノ乾性及濕性水泡音ヲ聞ク故ニ「クルブ」性肺炎トハ症狀異ナリ其他胸部心窩腹部等ニ疼痛ヲ訴フルアリ發熱アルモノトナキモノトアリ何レニモ應用セリ全ク稀ニハ「クルブ」性肺炎ト同様ノ徵候アリシモノアリ之レハ所謂「クルブ」性肺炎ナランカ之レニモ應用セリ(症候參照)。

五、其他本病ヲ原因ト認メシモノ例バ母體罹病後哺乳兒衰弱セルモノニ母體ニ注射セリ一例ナレドモ良結果ヲ得タリ。

注射法流行性感胃ヲチフテリアト同様ニ見倣シ其症狀ニ應ジテ注射ス故ニ重症者ハ三號二ケ輕症者ハ三號一ケヲ一回ニ皮下ニ注射シ以後ハ症狀ニ應ジ毎日カ一二日後

ニ三號一ケヲ注射セリ但小兒ハ滿一年ヲ一號一ケトシ生後八十日ノモノ〇七同四十日ノモノ〇五ヲ注射シ肺炎様症候ヲ治セリ注射部位ハ大腿ノ内側又ハ胸部ノ皮下ニ注射セリ發病後二三日以内ニ注射セルモノハ三號一ケニテ治癒セルモノ多ク二回以上注射セルモノハ甚ダ少數ナリ一例ハ九回一例ハ六回二例ハ四回四例ハ三回他ハ皆一回又ハ二回ノ注射ナリ。

効力及注射後ノ症狀變化チフテリアニ注射セルトキト同様ノ確効アリ治癒ノ日數多クハ同様ナリ急性症狀ノモノニアリテハ注射後二時間乃至五六時間後ニ頭痛胸痛腹痛輕減シ爽快ヲ感シ安眠ヲナシ發汗ヲ來シ翌日ニ至リ脈搏減退シ食欲ハ亢進ス皮膚ハ濕潤シ顔貌ハ良好トナル體温ハ注射時三十九度以上アリシモノハマ、一二日後ニ下降シ二三日三十八度位ノ輕熱ヲ保ツモノアリ。

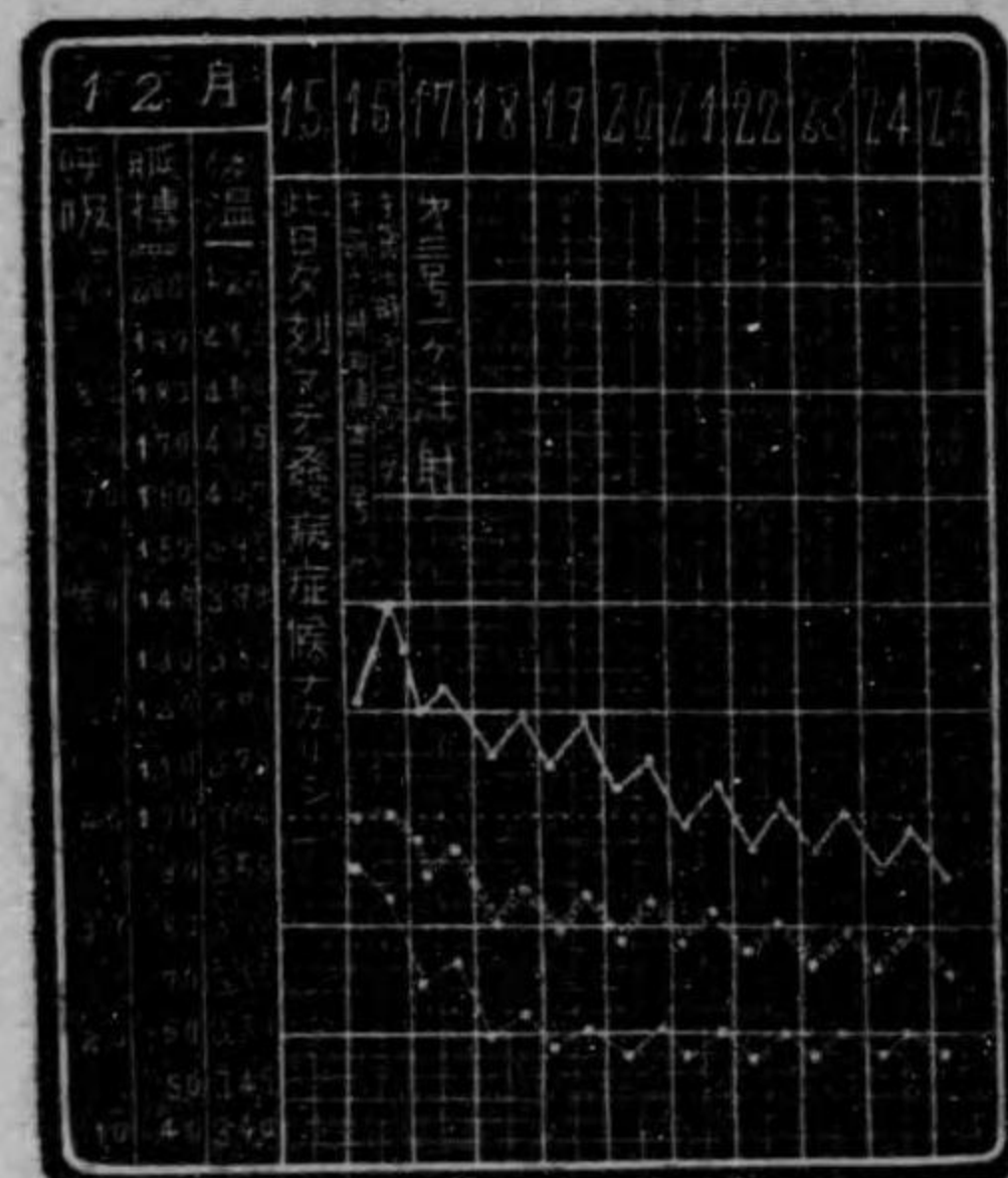
氣管、チフテリア様症狀アルモノ急性肺炎様症候アルモノハ注射後特ニ灰白色膿様喀痰多量ニ喀出セラル然レドモ三日後ハ漸次ニ減少シ注射ヲ重ヌルニ從ツテ著ク減少ス咳嗽モ亦減ズ注射後二三日ニシテ氣管炎徵候ノモノニモ肺炎様徵候ノモノニモ一種ノ血痰ヲ二三日喀出セルモノ多ク以後ハ粘調痰ニ變ジテ治ス注射セザルモノモ同様ノ喀痰アリシ死亡セルモノハ死期ニ近クニ從ツテ減少シ治癒ニ赴クモノハ増量シ

一八

テ後減少セリ注射セルモノハ之ノ變化急速ナルヲ異トス故ニ注射ニヨリ氣管又ハ氣管枝カ肺胞カニ存セシ疑膜様炎症治療スルニ從ツテ膿痰ニ次デ血痰ヲ出ス氣管デフテリアニ血清注射ヲナシタルトキト何等ノ差別ナキガ如シ只大ナル疑膜片ヲ見ザルノミ下痢嘔吐ハ注射後七八時間ニシテ多クハ奏効セリ一般ニ大人ヨリ小兒ハ奏効著明ナリキ思フニ輕症ハ加答兒重症ハ疑膜形成ナランカ肺後下部ニ肺炎様徵候ヲ呈シ浸潤狀ナレドモ呼吸音微弱ニシテ數十日ニ亘リ體温多クハ平常ニシテ咳嗽ノ強キモノト少ナキモノトアリ何レモ粘調ノ咳痰アリ之レハ多クハ注射回数三回ヲ要シタリ三日ニ一回ヨリハ二日ニ一回ヅ、注射セルモノ効アリシモノノ如シ意外ニモ一回ニテ治セルアリ又四回以上ヲ要セシアリ之レハ安靜臥床ヲ守ラザリシタメナランカ、全注射人員ノ内死ニ類セシモノ二例死亡シ又重症者ニテ第一回ノ注射後豫定ノ注射ヲナサズ死亡セルモノ四例アリ其他ハ一般療法アスピリン、鹽規ヂキタリス製劑カンフル、咳痰劑安靜等ノミニテハ治愈疑ハシキ重症者ニテモ血清注射ニヨリ確實ニ奏効セリ思フニ死ニ類セザル以前ニ注射セルモノニ一人ノ死亡ナシ。

注射開始ノ理由

劇烈ナル氣管デフテリア徵候ヲ呈セルインフルエンザ



治愈
血痰殆ト消失
同上
純血ヲ交ヘタル喀痰ヲ出ス
同上
注射後三時間ニシテ膿痰多量ナリ

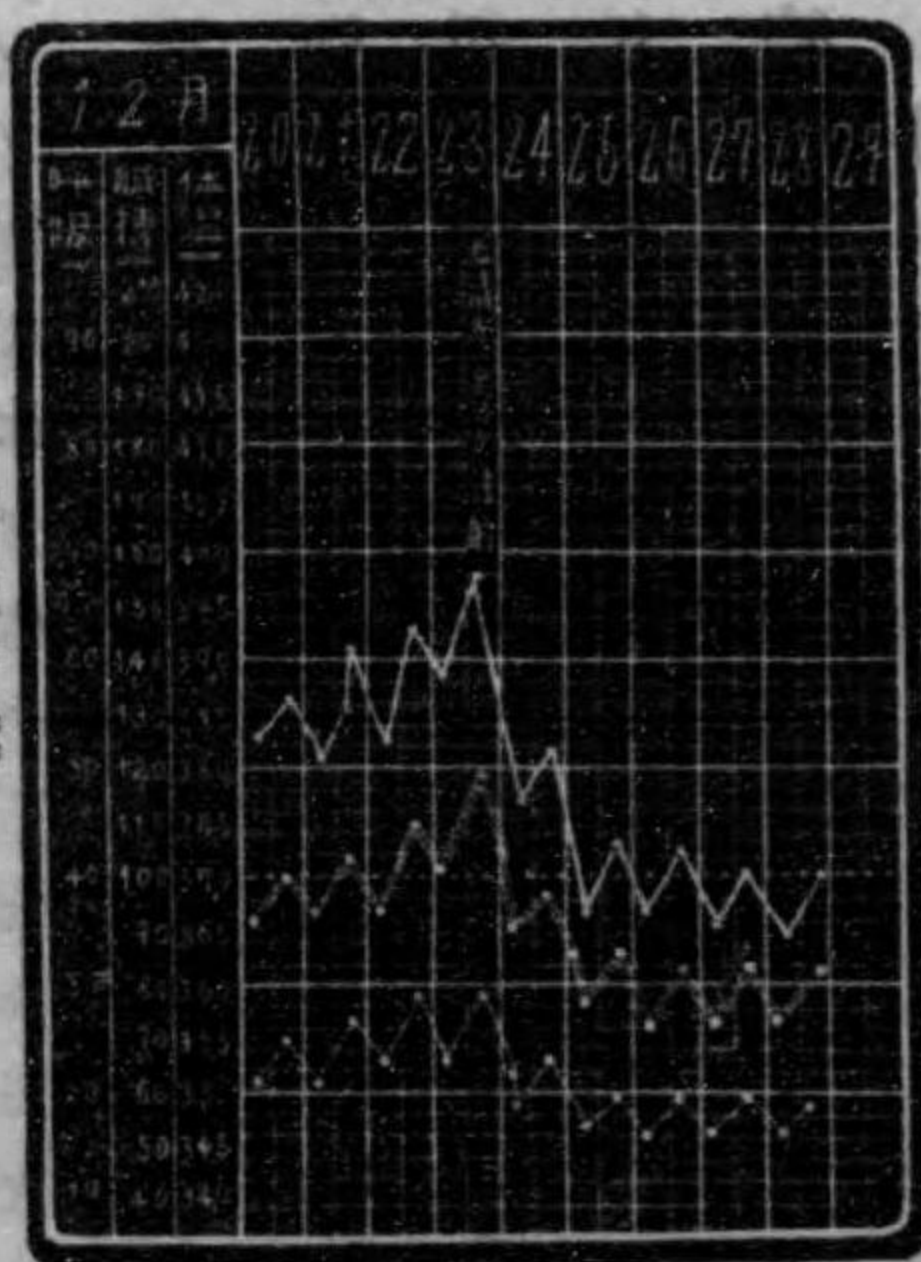
二十一歳ノ男子



インフルエンザ肺炎右中下葉

治愈
午後四時嘔吐下痢止ム嘔吐下痢アリ

五歳ノ男子



インフルエンザ肺炎右中下葉

治愈

血清ハ第二號ト改ム

ドクトル久保田詢氏最近眼科治療法ニ匍行性角膜潰瘍ニ「デフテリア」血清注射療法ノ報告アリ故ニ余ハ肺炎菌ニヨリ發スル角膜潰瘍ニ効アルナランニハ肺炎ニモ効アラント推定シタルノミナラズ近時「デフテリア」血清ノ抗毒素ハ他菌ノ毒素ヲモ中和スル物質ヲ生ゼシムト云フコトヲ耳ニセリ之ノタメ久シキ以前ヨリ肺炎ニ試ミント想定シ居タルモ他人ニ動物試驗的ニ試ムル能ハズ空シク過ギ來レルト。

本病流行ノ初期昨年十一月上旬近村ノ一家族皆流行性感胃ニ罹リ何レモ輕症ニシテ醫療ヲ要セザリシニ高橋某十一歳ノ男子ノミ氣管「デフテリア」徵候ヲ呈シ咳嗽氣管狭窄ノ症狀甚シク發病後五日即チ十一月十二日夕刻虛脱ニ陥リ死ニ類セリ因テ或ハ氣管「デフテリア」ナランカト半信半疑家人ト相談ノ上「デフテリア」血清第三號二ケ及強心劑ノ注射ヲナシタルニ翌日ヨリ症狀可良トナリ膿様喀痰多量ナリ然レドモ「デフテリア」ノ如キ疑膜片ヲ出サズ二三日後ニ血痰ヲ出セリ同月十六日又第三號一ケヲ注射シ數日後全治セリ之ノ時ハ之レヲ氣管「デフテリア」ナランカト推定シ居タリ然ルニ其後流行甚ダシク續々肺炎様徵候ヲ發スルモノアリ特ニ我家族ハ十一月二十八日ヨリ十二月上旬ニ至リ相次デ全部罹病シ最後ニ余モ往診ヨリ歸ルヤ頭痛アリテ體温三十七度七分十二月八日夜臥床前第三號一ケヲ余自身ニ注射セルニ二三日後ニ頭痛去リ體

温下降シタリ其間症狀増悪セズ依然トシテ業務ニ從來スルヲ得タリ余ハ感冒ニ罹ルトキハ習慣性ニ膿胞性扁桃腺炎ヲ起シ「デフテリア」血清注射ニヨリ臥床ヲ防止スルヲ常トセリ然ルニ流行性感胃ヲモ豫防スルコトヲ得タリ之レ偶然ナランヤ十二月十二日愚妻肺炎様症狀ヲ發シ頭痛胸痛アリテ少シク膿痰ヲ喀出ス此時始メテ肺炎ニ「デフテリア」血清ヲ試ミント第三號一ケヲ注射セシニ豫期以上ニ奏効シ注射後二時間ニシテ頭痛胸痛去リ爽快ヲ覺エタリ膿様痰ヲ増シ二日後第二回ノ注射ニテ咳嗽喀痰減少シタルモ血痰ヲ出シ二三日ニシテ粘調痰ニ變ジ治療ニ向ヘリ。

同十二月十六日日本年廿四才ノ妹劇烈ナル氣管「デフテリア」様症狀ヲ呈シ呼吸困難咳嗽氣管部疼痛甚ダシク午前十一時體温三十八度ナリ試ニ血清第三號一ケヲ注射セルニ二三時間ニシテ疼痛呼吸困難輕快シ脈ハ變化ナク百至體温ハ三十九度ニ上昇セリ多量ノ膿様痰ヲ出シ顔貌良好トナリ症狀稍々輕快ス夜七時ニ再ビ第三號一ケ「デフテリア」血清ヲ注射シ翌日ニ至リ體温三十八度脈九十至一般症狀輕快セルモ咳嗽喀痰ハ依然タリ疼痛ハ咳嗽時ノ外ハ訴ヘザルニ至レリ此日第三號一ケヲ注射シ三日目ヨリ血痰ニ變ジ二三日ニシテ咳嗽喀痰減少シ粘調痰ニ變ジ十日後ニ離床全治セリ前ニ高橋某ヲ氣管「デフテリア」ナリト誤推シ血清ヲ注射シ次ニ愚妻及妹ニ注射シ其喀

痰ノ状態ヲ見ルニ全ク同様ナルノミナラズ治療經過全ク同一ナリ然ラバ之レ同一疾患ナラザルベカラズ血清ヲ注射セザルモ氣管又ハ肺ニ變狀ヲ呈セルモノハ急劇ニ多量ノ喀痰ナキモ注射セル時ト同様ノ喀痰ヲ出セリ之ノ實驗ニテ大ニ効アルコトヲ信ジ進ンデ一般患者ニモ應用セント決心セリ。

一般注射ノ狀況

家族外患者ニ應用十二月十八日妊娠六ヶ月ノ婦人發病後三十日以上ヲ經過シ咳嗽頻發喀痰ニ苦ミ右肺後下部ニ浸潤徵候アリテ體温三十七度内外ヲ上下シツ、アリシモノ百方治療ヲ試ミ居タルモ思ハシカラザリシ故血清注射ヲ試ミテハ如何ト相談セシニ應ゼリ因テ第三號一ケヲ注射シ稍々良好ナリ其後三日ニ一回ツ、前後四回ノ注射ニテ咳嗽殆ド治シ離床シ遂ニ全治セリ。

十二月十九日再發セル強壯ノ男子嘔吐下痢高熱アリシモノ第三號一ケヲ應用シ翌日咳嗽喀痰増加セルモ良經過ニ變ジ十餘日後全治セリ。

同二十一日強壯ノ男子肺炎様徵候及嘔吐下痢アル二例内一例ハ下血アリ之レニ第三號一ケツ、應用セルニ前同様症狀良好トナリ全治セリ又一婦人再燃ニヨル右肺後下部ニ浸潤徵候アルモノニ注射シ數日後全治セリ以後ハ注射ニ應ズルモノ日々増加シ今日ニ至ル。

單純下痢ノ一例本年六才ノ豚兒十一月三十日再發ニテ下痢ヲ起シ十日程三十八九度ヲ上下シ腹部自發痛壓痛共ニ存シ解熱後モ下痢腹痛去ラズ日々衰弱ヲ加ヘ十二月二十三日頃百計盡キテ試ミニ第二號一ケヲ應用セリ然ルニ良經過ニ變ジ前後四回ノ注射ニテ全治セリ之レハ肺ニ何等ノ變狀ナカリキ即チ單純下痢ナラン但シ腸管ノ變狀ハアリシナラン。

之レ迄ノ經驗ニヨレバ如何ナル症狀ニテモ發病後日數ヲ經過セズ二三日内ハ注射回数大略一回ニテ治セシモノ多ク一週間以上ヲ經過セルモノハ二三回以上ヲ要セシ如ク又本症ニ必要ナル安靜ヲ守ラザリシモノハ注射セルモ症狀増悪セルモノ多カリキ故ニ絶對ノ安靜ハ必要ナリシガ如シ然レドモ無熱ニテ下痢又ハ肺後下部ノ浸潤アルモノ外來ニテ注射シ治セルモノモアリ。

一般對症療法ハ症ニ應ジ皆血清ヲ用キザルトキト同様ニ應用セリ數例ノミ注射許リニテ治セリ發熱アルモノハ多ク解熱劑ヲ應用セリ其他肺炎ニ温罨法ヲ用キタリ。

豫防注射ハ一家族ニ本病侵入シ今ヤ看病人ニ窮セントスル際看病人ヲ殘スタメニ注

射セリ之ノタメ看病人残り非常ナル便益ヲ得タリ、注射量ハ大人第三號一ケ
 因ニ注射セル者ハ治療速ニシテ再發少カリキ、
 注射五十回即チ十二月二十八日頃東京日進醫學社ノ流行性感胃ニ關スル記事募集ニ
 應ジ大意ヲ發表シ同月三十一日ヨリ本年一月十日頃ノ間ニ親友知人五十餘人ニ略報
 シ實驗ヲ乞ヒツ、アリシガ未ダ回答ニ接セザルモノ多キモ早速實驗セラレ確實ナル
 効果ヲ報ゼラレタルモノ數氏アリ之レ迄本病流行期間ニ大方諸賢ノ實見ヲ仰ガン爲
 メ種々發表ニ勉メタリ既發表中注射回數ヲ治療人員ト間違アリシヲ發見シコ、ニ訂
 正ス、

參考トシテ記サンニ昨年夏六歳ノ女兒肺炎ニテ治療セルニ其母曰ク三四年前先輩老
 練阿久津均氏ニ感冒ノ豫防注射ヲ受ケ其後健全ナリシト適々本年一月十九日氏ニ
 會シタルニ余ノ報告後十回ノ注射ヲナセリト其時ニ曰ク余十年前ヨリ慢性氣管枝加
 答兒症狀アルモノニ、チフテリア血清注射ヲ行ヘ常ニ良好ナル結果アリシト此時始メ
 テ知ルコノ女兒ノ注射又然ルヲ、
 神戶市ノ久保田晋氏ヨリ回答中、チフテリア血清ニ關スルモノ次ノ如シ御高説ノ、チフ
 テリア血清注射ニ對シテハ小生ニモ大ニ意見ヲ有セリ貴兄第一、第二、第四項ノ症狀ア

ルモノニハ最モ、チフテリア血清注射ノ必要ナルヲ認ム第一項ハ最モ然リ第二項高熱
 者ニシテ幾分咽頭ニ異狀アルモノ亦然リ第四項肺炎様症候アルモノニテ肺炎症候ニ
 比シテ重症ノ模様アルモノニモ亦然ルヲ見ル只小生ハ貴兄ノ如キ多數ノ例ヲ有セザ
 ルヲ以テ直ニ以テ特效藥ト稱スルコトヲ得ザルモ貴説ニハ最モ同感ナリ、
 氏家町黒須菊三九氏一月八日報ジテ曰ク本病ノタメ五日程咽頭炎ニテ呼吸困難ニ苦
 ムモノニ注射ヲ行ヒ即効ヲ見タリト、
 西那須野山村勇氏一產褥婦ノ本病肺炎重症者ニ第三號貳ケ注射シ約貳時間後ニ義膜
 様ノ喀痰多量ニ喀出シ呼吸困難輕快セシモ以後注射ヲ繼續セザリシタメカ途ニ不幸
 ノ轉歸ヲ取リタル一例ヲ報ゼラル、
 河内郡古里村釜本氏ハ、チフテリアニ血清注射ハ注射後二三時間内ニ安眠セザルモノ
 ニハ即時注射ヲ續行シ安眠ヲ度トスト、

結論

以上ノ理論ト實驗ニヨルトキハ、トイリール氏ノ眼科ニ於テ報告結論セル血清治療ハ
 必ズシモ其細菌ニ對スル固有ナル血清ヲ求ムルコトヲ要セザルヲ以テ吾人ハ容易ニ

手ニ入リ易キチフテリア血清ヲ以テ非實扶的里性ノ種々ナル疾患ニ試ミ多數ノ場合ニ於テ信ズベキ良好ナル成績ヲ得タリ。經驗シタル例症ハ吾人ニ教示セリ血清ノ使用ハ決シテ危險アルモノニアラズ而シテチフテリア血清ハ有効ナリ多ク皮下注射トシテ十乃至貳十立方センチメートルヲ使用シ症ニ從ヒテ反復セリ結膜下注射ハ良好ナラズ點眼亦恐クハ良好ナル結果ヲ得ベシト詳細ハ久保田氏最近眼科治療法參照セラレタシ余ハ之レ等ノ說ハ益々確實ニ眼科ノミナラズ他ノ種々ナル疾病ノ治療劑トナシ得ベキヲ信ズ彼ノベールリング氏ノ實扶的里血清ハ實扶的里ニノミ有効ナリト信ゼラレタルハ誤ナリ又アルノゾアン氏ノ特異ナルモノナシト謂フ說ハ信實ナルヲ知レリ。今後ベールリング北里兩氏ノ恩惠ハ如何ニ人類ニ幸福ヲ與フルカ無邊ナルベシ終リニ御報告ヲ賜リタル諸氏ニ深謝ス願クバ大方諸賢ノ御實驗ヲ望ム。

大正八年三月十四日脱稿

大正八年五月一日印刷
大正八年五月五日發行

正價 金參拾錢

述行者兼

五味淵 伊次郎

栃木縣鹽谷郡矢板町大字木幡

印刷者

加藤 晴吉

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

印刷所

合資 正文 舍

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

發賣元

東京市本郷區湯島切通坂町

南

江

堂

85.22

53
153

終